



【ひろしま じゅんこ さん】朝日町
●「青少年のための科学の祭典千歳大会」実行委員会の事務局長。
同大会は、平成18年に第1回を開催してから今年で8回目をむかえる。

科学を通じて、好奇心をくすぐられてみませんか

ス

トローなどの身近な物などを使った実験で、思いもよらない反応に目を輝かせる子どもたち。ここでは、多くの子どもの真剣な表情が溢れています。

毎年、企業や大学などが参加し、たくさん親子連れでにぎわう「青少年のための科学の祭典千歳大会」。廣島さんは、そこで実行委員会の事務局長を務めています。

以前、子どもが通う小学校でPTAの広報委員を担当していた廣島さん。多くの親から「子どもの創造力を高めさせるために科学の実験などを行いたい」との要望がありました。

そこで、科学の実験教室を行ったところ、親たちから大変好評でした。「同じような思いを持つ親はほかにも

たくさんいるはず。もっと、たくさん子どもを対象に科学の実験教室を開きたい」という思いが、千歳で科学の祭典を開くきっかけになったと振り返ります。

「科学の祭典を開催するときは、千歳科学技術大学や多くの企業などに、参加してもらおうと呼びかけました。その声にすぐ応えてくれて素晴らしい大会になりました。」と話します。

また、廣島さんは子どもたちに科学をより正しく教えられるように札幌の大学に1年間、通って学びました。「授業は夜間だったので、通うのが大変でした。でも子どもたちの笑顔を見ただけにがんばりました。」と話す廣島さん。多くの子どもに、新しいことに興味・関心を持つてほしいと願い、実際に実

験コーナーに立って直接、子どもたちとふれあっています。

「科学の祭典は、子どもたちに日常生活で、『あの実験がこんなことに役立つている』などの気づきを与える場です。そこで、子どもたちにもっと新しいことを知りたいという興味や関心、好奇心を持つてほしいと思っています。そのために、私たちはできるだけたくさん種を蒔いていくんです」と笑顔で話します。

今年も、子どもだけではなく、大人にも科学の素晴らしさを伝えるために「サイエンスカフェ」を開きます。「この場を通じて、より多くの方が色々な分野に興味や関心、好奇心を持つてほしい」と力強く語ってくれました。廣島さんの挑戦はまだ続きます。

人のいる風景

SCENERY OF PEOPLE



廣島

JUNKO
HIROSHIMA

潤子

さん